

令和5年度

小 論 文

(60分)

短期大学部 食物栄養学科

解答はすべて解答用紙に記入すること

注意事項

- 1、試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開かないこと。
- 2、問題用紙は、表紙を含めて3ページである。
- 3、解答用紙は、2枚である。2枚とも解答すること。
- 4、受験番号・氏名は、監督者の指示に従って記入すること。
- 5、問題用紙の余白等は適宜使用してよい。

問 題（その１）

短期大学部 食物栄養学科

以下の文章を読んで、次の問いに答えなさい。

本来は食べられるのに廃棄される「食品ロス」は貴重な資源の^(a)浪費だ。「作りすぎない」「買いすぎない」の意識を共有し、削減を進めたい。

売れ残りや返品、食べ残しなどによる食品ロスは、２０２０年度は推計５２２万トンで、前年度の５７０万トンから８％減った。１２年度の推計開始以降、最少だった。

食品メーカーや飲食店などの「事業系」が前年度比１１％減の２７５万トン、個人が買いすぎた食材や食べ残しなどの「家庭系」は、５％減の２４７万トンだった。

政府は２０００年度の９８０万トンから、３０年度には４８９万トンに半減させる目標を掲げている。２０年度の数字だけ見れば、削減は着実に進んでいるが、外食産業がコロナ禍で仕入れを控えるといった⁽¹⁾トクシュ要因があったことに留意する必要がある。

これから社会生活がコロナ禍前に戻り、外食の需要が増えても、ロスの増加を最小限に抑え、目標達成につなげることが重要だ。

ロシアのウクライナ侵略の影響で、^(b)世界的な食糧危機が懸念されている。日本は食料⁽²⁾ジキユウ率がカロリーベースで３７％にとどまっている。社会全体で食品ロス削減の努力を続けねばならない。

食品業界の商慣習では、製造から賞味期限までの期間の３分の１を過ぎると、納品できないことが多い。これを①（ ）に見直す動きや、賞味期限を年月日でなく、年月単位で表示することでより長くする試みが広がっている。

的確な需要予測に基づく^(c)生産体制も構築してもらいたい。

小売店では、製造から一定の時間を経た弁当の値引きや購入者へのポイント付与が⁽³⁾フキユウしつつある。割引幅や対象となる商品を拡大してはどうか。恵方巻きやクリスマスケーキといった季節商品の予約販売も効果が大きい。

飲食店の場合は、食が細い人用の「小盛り」をメニューに加えることや、希望者に食べ残しの持ち帰りを認めることが、廃棄量削減につながるだろう。

家庭での食品ロスを減らすには、消費者自身が過度な「鮮度志向」を変えることも大事だ。

賞味期限は「おいしく食べられる」目安で、傷みやすい生鮮食品の消費期限とは異なる。期限が来たからといって、ただちに捨てる必要はない。

何より、買いすぎを防ぐための工夫が大切だ。家庭にある食材の品目や量をチェックし、必要なものにしぼる習慣が削減につながるのではないか。

「食品ロス 社会全体で削減を進めよう」読売新聞（２０２２年６月１７日）

問１ 本文中の____を引いた語句(1)(2)(3)のカタカナを漢字に、____を引いた語句(a)(b)(c)を英単語(すべて小文字)にそれぞれ直しなさい。

問２ 本文中の下線部①のカッコ内に入る適切な言葉を次から一つ選び、記号を書きなさい。

A. 10 分の 1 B. 4 分の 1 C. 2 分の 1

問３ 上の文章を読み、食品ロスの削減に対するあなたの考えを 400 字以内（句読点も 1 字に数える）で述べなさい。

問 題 (その2)

短期大学部 食物栄養学科

下の表は、わが国における発電電力量 (億 kWh) の種類を年度ごとに調査したものである。この表を見て、問いに答えなさい。

「電源別発電電力量の推移」

(単位 : 億 kWh)

年度 電源	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
原子力	2,882	1,018	159	93	0	94	181	329	649	638	388
石炭	3,199	3,058	3,340	3,571	3,544	3,560	3,448	3,473	3,324	3,266	3,102
天然ガス	3,339	4,113	4,320	4,435	4,552	4,257	4,351	4,211	4,028	3,815	3,899
石油等	983	1,583	1,885	1,567	1,161	1,006	999	889	727	641	636
水力	838	849	765	794	835	871	795	838	(A)	796	784
新エネルギー等※	253	281	308	385	490	615	742	860	963	1,059	1,199
総発電量	11,494	10,902	10,777	10,845	10,582	10,403	10,516	10,600	10,501	10,215	10,008

※注) 新エネルギー等 (風力、太陽光、地熱、バイオマス等)

資料 : 「令和 2 年度 (2020 年度) エネルギー需給実績 資源エネルギー庁」一部改変

問 1 2018 年度の水力発電量 (表の (A)) はいくらか求めなさい。

問 2 2011 年度, 2012 年度における、総発電量に占める「原子力」の割合をそれぞれ求めなさい (小数点第 2 位以下を四捨五入し、小数点第 1 位までとすること)。また、急激な変化が起きた理由を、国内でおきた災害をもとに述べなさい。

問 3 2020 年度における火力発電 (「石炭」、「天然ガス」、「石油等」) が同年の総発電量に占める割合を求めなさい (小数点第 2 位以下を四捨五入し、小数点第 1 位までとすること)。

問 4 2019 年度における「新エネルギー等」を基準として、2020 年度は何 % 増加したか求めなさい (小数点第 2 位以下を四捨五入し、小数点第 1 位までとすること)。

問 5 燃料費が高騰する中、「新エネルギー等」の注目度が高まっています。あなたの考える「新エネルギー等」のメリットとデメリットを、それぞれ 50 文字以内 (句読点も 1 字とする) で書きなさい。